

キャラクター名
天宮 理愛 / アマミヤ リエ

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	探偵	カヴァー	大学生
	オルクス			19歳		
オプション			年齢	性別	女性	
覚醒	償い	衝動	恐怖	初期侵食率	41 %	
出自	母親不在	経験	大事故	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	0	0			1	行動値	12
感覚	2	0	2			4	(非装備時)	12
精神	3	1	0			4	戦闘移動	17
社会	2	0	0			2	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避			知覚	1		意志	4	1	調達	5	
運転	2		芸術：料理	1		知識			情報：ウェブ	7	
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		
運転			芸術			知識			情報		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
1+3+7		0				聖架の木漏れ日
1+2+3						聖櫃の輝き
1+3+5+7						聖者の印
4+9						聖火の息吹

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：ハッカー	
コネ：手配師	
ネックレス	
思い出の品	
応急手当キット	
モバイルPC	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
DD：傍らに立つ影P		N		
賢者の石	P 連帯感	N 恥辱		
お父さん	P 幸福感	N 隔意		
神楽坂 鳴	P 庇護	N 敵愾心		
助けてくれたオガアトP	P 信頼	N 不安		
石月さん	P 誠意	N 劣等感		
	P	N		

最大財産P: 14 残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
弱点看破	3	4	Xジャー	視界	単体	自動	DDイ	
効果：	対象が行う攻撃力+【LV*3】							
混色の氾濫	2	2	Xジャー		範囲(選択)	シンドロ		
効果：	EA123P							
原初の赤：アドヴァイス	5	5	Xジャー	視界	単体	自動		
効果：	C値-1(下限値：6)し判定ダメージ+LV個							
力の法則	2	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	DR直前 対象のDR+【LV+1】1R1回							
要の陣形	2	3	Xジャー		3体	シンドロ		
効果：	対象を3体に変更するシリアLV回							
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動		
効果：	EA100P							
導きの華	5	4	Xジャー	視界	単体	自動		
効果：	達成値+【LV*2】する							
原初の黒：時の棺	1	12	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：	EA33P							
原初の白：力の霊水	3	6	オート	視界	単体	自動	80↑	
効果：	DR直前 対象のDR+【LVD】1R1回							
猫の道	1							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

<特徴>
…貧乳です…はい、主にガイの女神のせいです…パッド入れないと山ができないのです…
怖がりです…

私の名前は天宮理恵、大学に通っている他の人とは少し違う大学1年生です。
私の父親は日本人で、レストランで働くママで厳しくも優しいお父さんです。
母親はロシア人で、料理研究家だったので何が料理は…その…はい。

私のお母さんは既に他界しており、その日こそ私が普通から外れた運命の日だったので。

あれは私が中学生の時でした…
その日、私は忙しいお母さんと夕々に一緒にお買い物をして出かけたのです。
私はとっても嬉しくて誕生日プレゼントで買ったお気に入りの中央に彫られたのイメージが嵌め込まれた十字のネックレスを付けて出かけました。
そして私とお母さんは一緒にデパートで買い物を楽しみました…そう…楽しみました…この時は…
今でも覚えています…17時34分…デパートが揺れ崩壊が始まりました…
周りから悲鳴が上がり我先にと逃げ出す人、何が起こったかわからなくて呆然としている人…
私は怖くて立ち竦んでいました…徐々にデパートの天井は崩落していききました…
そんな時、私はふと天井に視線を向けました。今思うと何故向いたのかわかりません。
ですが、視線を向けました。しかしそこには天井は無く崩落によって空いた天井から空が覗いていました。
そして、私は更に別の物を見てしまったのです…そう…あれは巨大な熊みたいな姿を一瞬だけ映ったのです。
あれを見た瞬間何故か理解してしまいました…あれは…普通じゃないと…
しかし、それが何なのか考える前に横から衝撃が来たのです。